

文法概説

命令形、依頼形

「～してください」、「～しなさい」、あるいは「～してくれませんか」という相手に命令したり、依頼したりする表現は、相手との関係により変化します。その際、相手をどんな代名詞で呼ぶかを基準とすることができます。

相手を **āp** で呼びかける場合

ウルドゥー語では、丁寧な命令形として、相手を **āp** で呼びかける命令形を用います。この命令形は、動詞語幹のあとに **iyē** という語尾を付加してつくります。ごく一部の不規則変化をする動詞群を除けば、すべての動詞に共通の変化です。

例)

بچا (bacānā) 助ける بچايے (bacāiyē) 助けてください

آئی (ānā) 来る آئیے (āiyē) 来てください

اٹھنا (uṭṭhānā) 起きる اٹھئیے (uṭṭhiyē) 起きてください

例外的な変化をする動詞群

命令形	不定詞	
کچھے kijiyē	کرنا	する
لیجھے lijiyē	لینا	取る
دیجھے dijiyē	دینا	あげる
پیجھے pijiyē	پینا	飲む
سیجھے sijiyē	سینا	縫う

依頼形

「～してくれませんか」という、相手を **āp** で呼びかける場合に用いられる依頼形は、上記命令形のあとに、不変化辞の **gā** を付け加えることによりつくることができます。

کھائیے گا۔ (k^hāiyē gā)

食べてくれませんか。

لیجیے گا۔ (lijiyē gā.)

取ってくださいね。

(mihirbānī kar ke kal yahāṇ tašrīf lāiyē gā.) مہربانی کر کے کل یہاں تشریف لائیے گا۔

すみませんが、明日ここへお越しいただけませんか。

相手を **tum** で呼ぶ場合の命令形

仲のいい友人どおしや夫婦間など、相手と近い関係にある場合には、その相手を **tum** で呼びかけます。その際には命令形も形が変わります。この場合、動词语幹のあとに **ō** という語尾を付加します。

ほぼすべての動詞に共通の変化です。

کرو	کرو (karō)	しなさい
پڑھنا	پڑھو (paṛhō)	読みなさい、学びなさい
دیکھنا	دیکھو (dēkhō)	見なさい

例外的な変化をするのは次の2つです。

لینا	لو (lō)	取りなさい
دینا	دو (dō)	与えなさい

動詞の過去分詞

ここでは、ウルドゥー語の動詞の中でもっとも複雑と言える過去分詞を学びます。

過去分詞は、ウルドゥー語不定詞の語尾 **nā** を **ā** に変化させた形を指します。この **ā** の部分は主語の性・数に応じて、**ē**(男性複数形)、**ī**(女性単数形)、**īṅ**(女性複数形)と変化します。**ā** は男性単数形の形です。

ウルドゥー語動詞の大きな特徴として、能格(**ergative**)と呼ばれる格の存在があります。これまで見てきた文章では、主語の性や数に応じて、動詞の形が変化していました。しかし、この能格と呼ばれる構文では、動詞の形は直接目的語の性と数に応じて変化します。そして、意味上の主語には後置詞が付加されます。

ウルドゥー語では、1つの文の中で、主格になれるのは1語のみであり、それ以外は後置格と

なります。したがって、能格構文では、直接目的語が主格となるため、意味上の主語は後置格をとらなければなりません。

非常に面倒なことに、ウルドゥー語で能格構文をとるのは、他動詞の過去分詞を用いる文だけに限られます。自動詞の過去分詞を用いる文では、主語と動詞の性と数が一致します。

ある動詞が、自動詞か他動詞かを見分けるには、日本語で「～を」という目的語が必要かどうか注目します。たとえば、「ご飯を食べる」、「本を読む」、「テレビを見る」など「食べる」、「読む」、「見る」などは他動詞です。一方、「お茶がこぼれる」、「朝、起きる」、「ものが落ちる」など「こぼれる」、「起きる」、「落ちる」は自動詞です。

例外の変化

現在分詞を作る場合には、全く例外がありませんでしたが、過去分詞を作る際には、一部例外があります。

まず、全く不規則な変化をする動詞がいくつかあります。これらの動詞はその形を覚える以外にありません。例外的な変化をする動詞は、コンピュータ動詞を除き、以下の8つです。

گیا	گیا (gayā)	行った
کړا	کړا (kiyā)	した
دیا	دیا (diyā)	与えた、あげた
لیا	لیا (liyā)	取った、もらった
پیا	پیا (piyā)	飲んだ
سیا	سیا (siyā)	縫った
چھوا	چھوا (c ^h uā)	触った、触れた
جیا	جیا (jiyā)	生きた

次に、上記の不規則な変化をする動詞以外でも、少しだけ音変化をとまなう動詞軍があります。語幹が母音で終わっている動詞がそれに相当します。これらの動詞の場合、規則どおり過去分詞を作る語尾をそのまま付加すると、発音がしにくいため、母音と母音の間に **y** の音を挟みます。

百聞は一見にしかず、と言うとおり、まず例を見てゆきましょう。

كھانا کھایا (k^hāyā) 食べた

آ آیا (āyā) 来た

کھونا کھویا (k^hōyā) 失った、なくなった

単純過去形

この形では、動詞の過去分詞が単独で用いられ、ほかには何も必要ありません。先に触れたとおり、自動詞と他動詞とで、どこが異なっているかに注意しながら、次の表を見てください。

自動詞

上段が、男性形を、下段が女性形を示しています。

	単数	複数
一人称	اٹھا uṭḥā اٹھی uṭḥī	میں اٹھے ہم uṭḥē
二人称	اٹھے uṭḥē اٹھی uṭḥī	تم اٹھے آپ اٹھیں uṭḥīṅ
三人称	اٹھا uṭḥā اٹھی uṭḥī	وہ اٹھے وہ اٹھیں uṭḥīṅ

例文

ہم صبح آٹھ بجے اٹھے۔ (ham subah āṭḥ bajē uthē.)

私たちは、朝8時に起きた。

وہ دیر تک نہیں اٹھی۔ (vō dēr tak nahīṅ uṭḥī.)

彼女は遅くまで起きなかった。

他動詞

他動詞の場合、自動詞とは異なる変化をすることに注意してください。以下に例を示します。

	単数	複数
男性単数	مقالہ لکھا lik ^h ā	مقالہ لکھا lik ^h ā
男性複数	مقالے لکھے lik ^h ē	مقالے لکھے ہم نے lik ^h ē
女性単数	کتاب لکھی lik ^h ī	کتاب لکھی آپ نے lik ^h ī انہوں نے
女性複数	کتابیں لکھیں lik ^h īṅ	کتابیں لکھیں

ここでは、「書く」という動詞を例に示しています。上の表を見ると、「誰が」書いたかではなく「何を」書いたかによって動詞の形が変化していることがわかれると思います。つまり、書いた人が誰であっても、それは動詞の変化には関係なく、書いたものが男性名詞単数形なら、動詞の形も男性単数形になります。書いたものが女性名詞複数形なら、動詞の形も女性複数形になります。

主語には後置詞 **نے (nē)** が付加されています。この後置詞は、他動詞の過去分詞を用いる文にのみ現れ、意味上の主語を表す語彙につきます。

完了形

完了形は、上記単純過去形に、コピュラ動詞の変化を付加することによりつくることができます。コピュラ動詞の変化が現在形なら、現在完了形、コピュラ動詞の変化が過去形なら、過去完了形です。ただし、他動詞の場合は単純過去の場合と同様に、動詞部分全体の変化は、直接目的語の性と数に一致します。

なお、未来完了形は、動詞の構造上「未来完了」と呼ばれますが、「～したはずだ」という過去の推量を示します。

また、自動詞 **rahnā** の完了形を用いて、進行形がつくられます(第 14 課を参照してください)。

(自動詞:「彼は朝7時に起きた」)

單純過去 (vo subah sāt bajē ut^hā.) وہ صبح ۷ بجے اٹھا۔

現在完了 (vo subah sāt bajē ut^hā hai.) وہ صبح ۷ بجے اٹھا ہے۔

過去完了 (vo subah sāt bajē ut^hā t^hā.) وہ صبح ۷ بجے اٹھا تھا۔

未来完了 (vo subah sāt bajē ut^hā hō gā.) وہ صبح ۷ بجے اٹھا ہوگا۔

(他動詞:「彼は手紙を書いた」)

単純過去 (us ne xatt lik^hā.) اس نے خط لکھا۔

現在完了 (us ne lik^hā hai.) اس نے خط لکھا ہے۔

過去完了 (us ne xatt lik^hā t^hā.) اس نے خط لکھا تھا۔

未来完了 (us ne xatt lik^hā hō gā.) اس نے خط لکھا ہوگا۔

状態を表す表現

過去分詞は、コンピュータ動詞の過去分詞をともなって、状態などを表す場合にも用いられます。
以下に例を挙げておきます。

(mēz par urdū ki kitāb rakk^hī huī hai.) میز پر اردو کی کتاب رکھی ہوئی ہے۔

机の上に、ウルドゥー語の本が置いてある。

(ham pākistān āē huē haiṅ.) ہم پاکستان آئے ہوئے ہیں۔

私たちは、パキスタンへ来ています。

(vō ṭōpī pahṇē huē āyā.) وہ ٹوپی پہنے ہوئے آیا۔

彼は帽子をかぶってやってきた。

仕草を学ぶ

パキスタン人を初めとして、ウルドゥー語話者がする仕草には、日本人が勘違いしたり、わからないものが少なからずあります。ここでは、そうした仕草の説明をします。

人を呼ぶ場合：日本人が犬や猫を追い払うときに使う「シュシュ」に近い音を出す(目上には使わない。目下の者に注意を喚起させる場合)。親しい仲間、同僚には、يار (yār)、بھئی (b^hai)、بھيا (b^haiyā)などの語彙を用いる。

悪いことが起きた場合：舌を使って「チュッチュッチュ」に近い音(小刻みな舌打ち)を出す。

痛みの表現：口をとがらせ「シューツ」に近い音を立てながら息を吸う。

悲しみの表現：両手で頭を抱えるか、両手で頭をたたく、もしくは胸をたたく。首を横に細かく早めに左右に振る。

喜びを表現する場合：互いの右手のひらをたたき合う(手を合わせるのは上下)

意見が対立したあと、一定の結論に達した場合：手を握り合って「پلو، ٹھیک ہے۔ (calo, t^hik hai.)」などと言い合う。

耳がかゆい場合：人差し指を耳に入れて、激しく回す。

おとなの男性同士が手をつなぐ：同性同士で手をつないで歩くのは、単に親愛の情を示しているだけで、それ以外の意味はない。

親しい挨拶：友人どおしが出会うと、3回肩を抱いて(左・右・左の順)挨拶する。ただし、異性に対してはやらない。

でかした！やるじゃないか：ウインクで表現する。

肯定する場合：首を横に振る。

どうしたんだ、なんだ？と相手に尋ねる場合：右手で野球のボールをつかんだような状態で、腕を上に向け、肘から先を(金庫のダイヤルを回すような動かし方で)くるくると回す。

しまった：舌を出す。

残念なことが起こった場合に発する言葉：オッホー(のように聞こえる。アクセントは「薩長」のように「オ」にある)

困難に直面した瞬間に出る言葉(例：やけどをした瞬間、無惨な光景を見た瞬間など)：اُف! (uf)

交渉での最終的な条件を言ったあと：يار پليز (yār, plīz)」と言いながら、作り笑いを浮かべる。

幅を示す場合は、日本人と同様両手で示すが、長さは指の先から肘の方に向かって示す。

作業や前途に希望が見えない場合：目を細めて、顔を少ししかめつつ、首を左右に振る。

おなかが減っている、食事を欲する場合：右手の手先をすぼめて口元にあてる。

のどが渴いた、水が欲しい場合：日本人が「ちょっと一杯」という感じで、コップを口にあてる。

日本人が「彼女」を意味するように小指をたてる：小便に行きたい

くしゃみをしたあと(くしゃみをした本人が言う)： الحمد لله (alhamd lillāh)

あくびをしたあと (あくびをした本人が言う)： الله اكبر (allāh akbar)